



2019年2月期第2四半期

(2018年3月1日～2018年8月31日)

決算説明会

わらべや日洋ホールディングス株式会社

(2918)

2018年10月11日



2019年2月期第2四半期業績報告

および2019年2月期業績予想



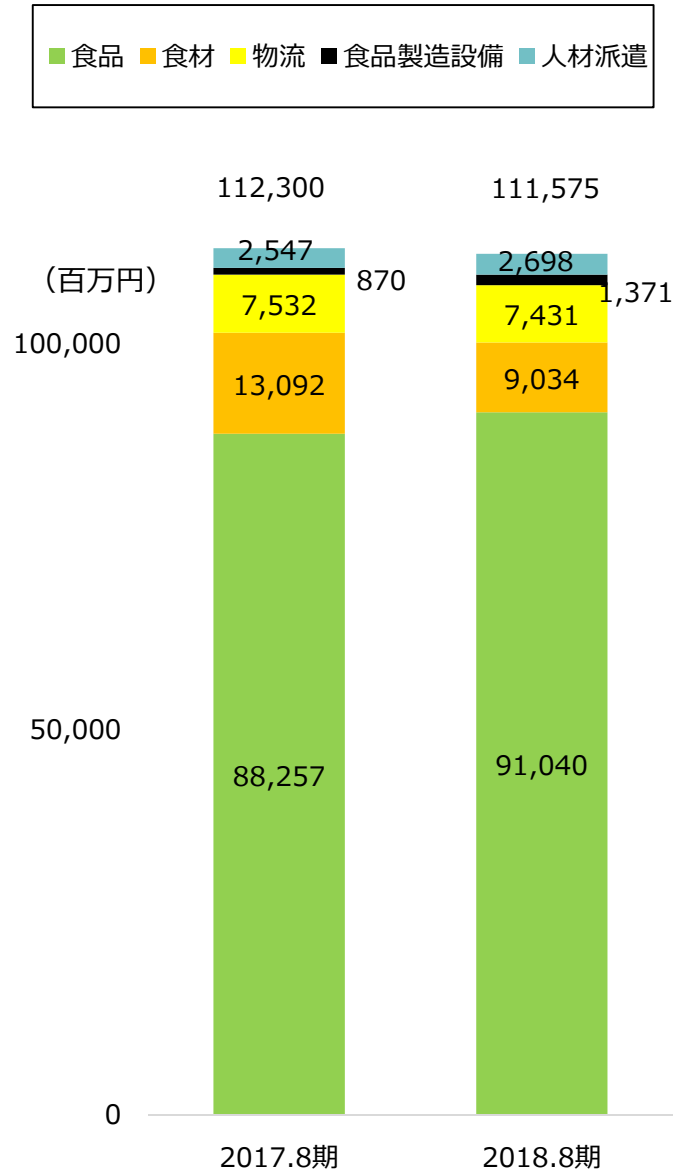
2019年2月期第2四半期連結業績

(単位:百万円)

	2017.8期	2018.8期		前年 同期比	期初予想比
	実績	期初予想	実績		
売上高	112,300 (100.0)	113,600 (100.0)	111,575 (100.0)	△724 <△0.6>	△2,025 <△1.8>
営業利益	3,211 (2.9)	3,000 (2.6)	1,694 (1.5)	△1,516 <△47.2>	△1,306 <△43.5>
経常利益	3,576 (3.2)	3,200 (2.8)	2,011 (1.8)	△1,565 <△43.8>	△1,189 <37.1>
四半期 純利益 (当社株主に帰属)	2,147 (1.9)	1,775 (1.6)	900 (0.8)	△1,246 <△58.1>	△875 <△49.3>
EPS(円) (当社株主に帰属)	122.44	101.23	51.33	△71.11	△49.90

* () 内は売上比率 (%)、<> 内は増減率 (%)、期初予想は2018年4月13日発表の予想数値

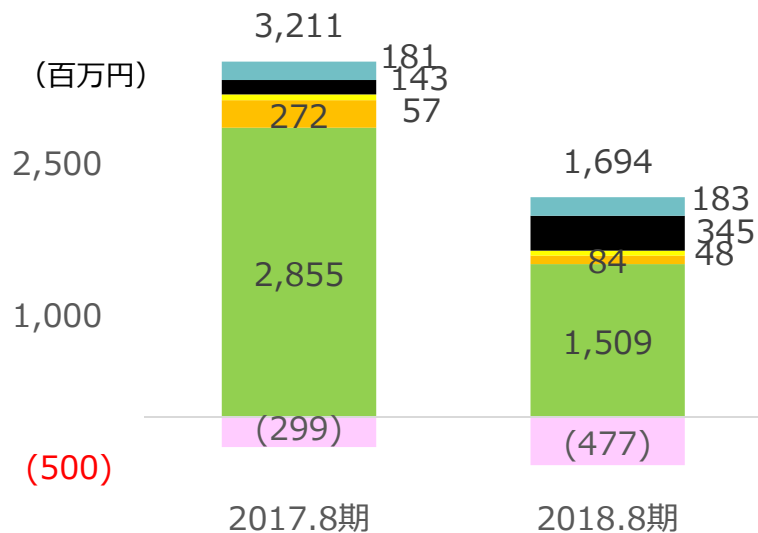
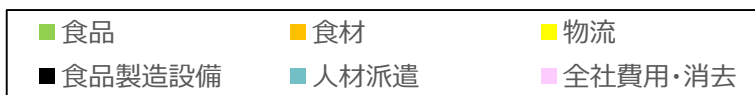
セグメント別売上高の状況(前年同期比)



* (単位:百万円) <> 内は増減率 (%)

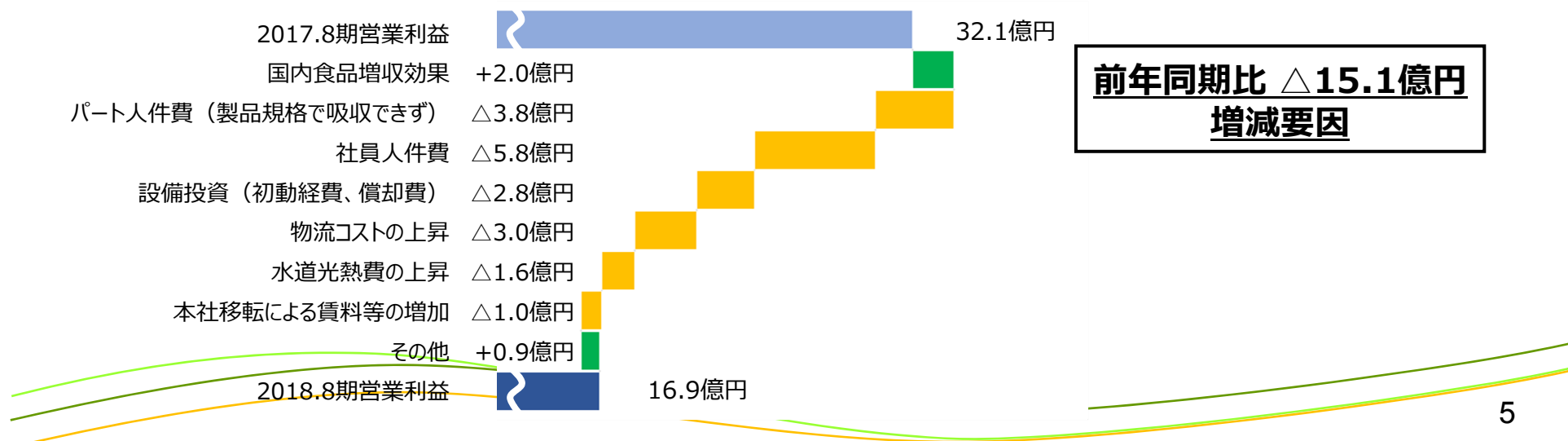
	2017.8期	2018.8期	増減	増減要因
売上高合計	112,300	111,575	△724 <△0.6>	
食品関連	88,257	91,040	2,782 <3.2>	納品店舗数の増加、Prime Deli連結子会社化(+12億円)
食材関連	13,092	9,034	△4,058 <△31.0>	水産加工品の取扱高減
物流関連	7,532	7,431	△100 <△1.3>	セブン-イレブン向け店舗配送のコース返上
食品製造設備関連	870	1,371	501 <57.6>	炊飯設備等の受注増
人材派遣関連	2,547	2,698	151 <5.9>	人材派遣、技能実習生関連事業の受注増

セグメント別営業利益の状況(前年同期比)



* (単位:百万円) <>内は増減率 (%)

	2017.8期	2018.8期	増減
営業利益合計	3,211	1,694	$\Delta 1,516$ < $\Delta 47.2$ >
食品関連	2,855	1,509	$\Delta 1,345$ < $\Delta 47.1$ >
食材関連	272	84	$\Delta 188$ < $\Delta 68.9$ >
物流関連	57	48	$\Delta 9$ < $\Delta 16.1$ >
食品製造設備関連	143	345	202 <140.9>
人材派遣関連	181	183	2 <1.2>
全社費用・消去	$\Delta 299$	$\Delta 477$	$\Delta 177$ <->



期初予想との差異要因

(単位:百万円)

	2018.8期		予想差異	差異要因
	期初予想	実績		
売上高	113,600	111,575	△2,025 <△1.8>	食材関連事業 水産加工品取扱高の未達 △17.9億円

	期初予想	実績	予想差異	差異要因
営業利益	3,000	1,694	△1,306 <△43.5>	
食品関連	2,660	1,509	△1,151 <△43.3>	次頁参照
食材関連	250	84	△165 <△66.1>	売上高（水産加工品取扱高）の計画未達
物流関連	150	48	△102 <△67.9>	売上高（セブン-イレブン向け共配売上）の計画未達、 燃料単価上昇
食品製造 設備関連	243	345	102 <42.3>	売上高（炊飯設備等）の計画超過
人材派遣 関連	148	183	35 <23.6>	売上高の計画超過
全社費用・ 消去	△453	△477	△24 <->	

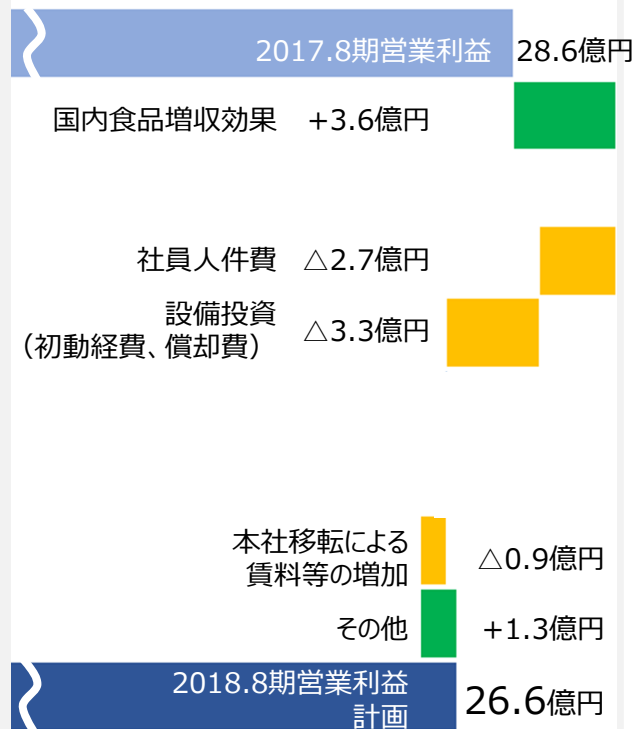
* <>内は期初予想比増減率(%)、期初予想は2018年4月13日発表の予想数値

期初予想との差異要因

食品関連事業 営業利益増減要因

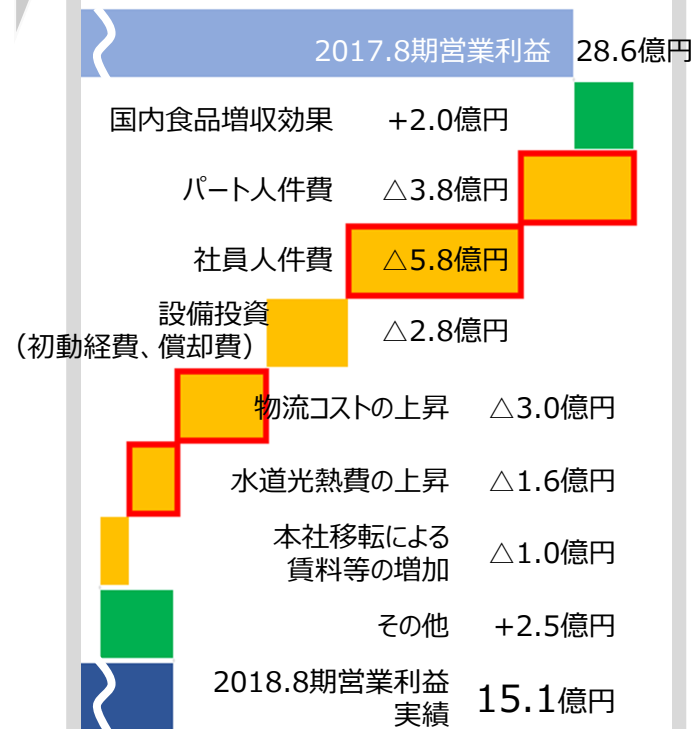
期初予想

前年同期比△2.0億円



実績

前年同期比△13.5億円



期初予想との差異

国内食品増収効果	△1.6億円
パート人件費 (製品規格で吸収できず)	△3.8億円
社員人件費	△3.1億円
設備投資 (初動経費、償却費)	+0.5億円
物流コストの上昇	△3.0億円
水道光熱費の上昇	△1.6億円
本社移転による 賃料等の増加	△0.1億円
その他	+1.2億円
計	△11.5億円

営業外損益・特別損益の状況(前年同期比)

(単位：百万円)

	2017.8期	2018.8期	増減
営業利益	3,211 (2.9)	1,694 (1.5)	△1,516 <△47.2>
営業外収益	532 (0.5)	484 (0.4)	△48 <△9.1>
営業外費用	167 (0.1)	167 (0.1)	0 <0.1>
経常利益	3,576 (3.2)	2,011 (1.8)	△1,565 <△43.8>
特別利益	- (-)	126 (0.1)	126 <->
特別損失	562 (0.5)	706 (0.6)	143 < 25.6 >
税金等調整前 四半期純利益	3,013 (2.7)	1,431 (1.3)	△1,582 <△52.5>
法人税等合計	866 (0.8)	506 (0.5)	△360 <△41.6>
非支配者株主利益	- (-)	24 (0.0)	24 <->
四半期純利益 (当社株主に帰属)	2,147 (1.9)	900 (0.8)	△1,246 <△58.1>

(特別損失)

前期 5.6億円
 ・わらべや日洋 釧路工場減損 3.7億円
 ・日洋 日鰻に対する貸倒引当金繰入 1.8億円

当期 7.0億円
 ・わらべや日洋 事業用資産の一部減損 7.0億円

* () 内は売上比率 (%) <> 内は増減率 (%)

連結貸借対照表 (前期末比)

(単位：百万円)

【資産】	2018.2期	2018.8期	増減
流動資産	30,952	33,932	2,979
固定資産	55,936	58,021	2,085
(有形固定資産)	(48,830)	(50,952)	(2,122)
(無形固定資産)	(904)	(1,214)	(310)
(投資その他)	(6,202)	(5,854)	(△347)
資産合計	86,888	91,953	5,065

(単位：百万円)

【負債・純資産】	2018.2期	2018.8期	増減
流動負債	26,053	31,510	5,457
固定負債	16,548	15,737	△810
(有利子負債)	(14,708)	(14,177)	(△530)
負債合計	42,602	47,248	4,646
純資産合計	44,286	44,704	418
(利益剰余金)	(28,247)	(28,544)	(296)
負債・純資産合計	86,888	91,953	5,065

資産合計 – 約50億円の増加

- 流動資産(受取手形及び売掛金)の増加：約29億円
- 固定資産(建物及び構築物)の増加：約20億円

負債・純資産合計 – 約50億円の増加

- 流動負債(支払手形及び買掛金等)の増加：約54億円
- 固定負債(長期リース債務等)の減少：約8億円
- 純資産(利益剰余金、非支配者株主持分)の増加：約4億円

連結キャッシュ・フロー計算書

	2018.8期
税金等調整前四半期純利益	1,431
減価償却費	2,643
売上債権の増減額（△は増加）	△2,738
たな卸資産の増減額（△は増加）	△976
仕入債務の増減額（△は減少）	1,801
未払金の増減額（△は減少）	1,036
その他	862
小計	4,059
法人税等の支払額	△688
その他	277
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,648
有形固定資産の取得による支出	△1,581
その他	△1,232
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,814
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,365
現金及び現金同等物に係る換算差額	△23
現金及び現金同等物の増減額	△1,554
現金及び現金同等物の期首残高	5,203
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	325
現金及び現金同等物の期末残高	3,974

（単位：百万円）

2019年2月期 連結業績予想（期初予想比）

	期初予想（単位：百万円）				修正予想（単位：百万円）		
	上期	下期	通期		上期実績	下期	通期
売上高	113,600 (100.0)	111,000 (100.0)	224,600 (100.0)	→	111,575 (100.0)	106,125 (100.0)	217,700 (100.0)
営業利益	3,000 (2.6)	1,000 (0.9)	4,000 (1.8)		1,694 (1.5)	△194 (△0.2)	1,500 (0.7)
経常利益	3,200 (2.8)	950 (0.9)	4,150 (1.8)		2,011 (1.8)	△261 (△0.2)	1,750 (0.8)
当期純利益 (当社株主に帰属)	1,775 (1.6)	375 (0.3)	2,150 (1.0)		900 (0.8)	△320 (△0.3)	580 (0.3)

	差異			要因
	上期実績	下期予想	通期予想	
売上高	△2,025 <△1.8>	△4,875 <△4.4>	△6,900 <△3.1>	上期 ◆売上高 - 食材関連事業において水産加工品の取扱高が計画を下回る ◆営業利益 - 食品関連事業において人件費上昇を吸収しきれず、 また、エネルギー価格や物流コストの上昇が想定を上回る 下期は上期の状況が引き続き見込まれるほか、 食品関連事業においてチルド弁当などの売上高を修正、 設備投資内容を見直す
営業利益	△1,306 <△43.5>	△1,194 <△119.4>	△2,500 <△62.5>	
経常利益	△1,189 <37.1>	△1,211 <△127.5>	△2,400 <△57.8>	
当期純利益 (当社株主に帰属)	△875 <△49.3>	△695 <△185.3>	△1,570 <△73.0>	

* () 内は売上比率 (%)、<> 内は増減率 (%)、期初予想は2018年4月13日発表の予想数値



持続的成長に向けて

事業環境と課題

外部環境

- ✓ 中食市場の成長
 - ✓ チルド弁当の需要増
- } 競争激化

当社の状況

- ✓ 主力の米飯カテゴリーにおいてシェア苦戦
- ✓ 製造コスト上昇（人件費、水道光熱費、物流費等）の製品規格での吸収が計画に届かず

課題

- 1店舗あたり売上高の拡大 – 価値ある商品の提供
- 製造コスト上昇への対策 – 取引先との連携強化
- 事業環境変化への対応 – 事業戦略の再構築

1 店舗あたり売上の拡大 – 期初計画に対する状況

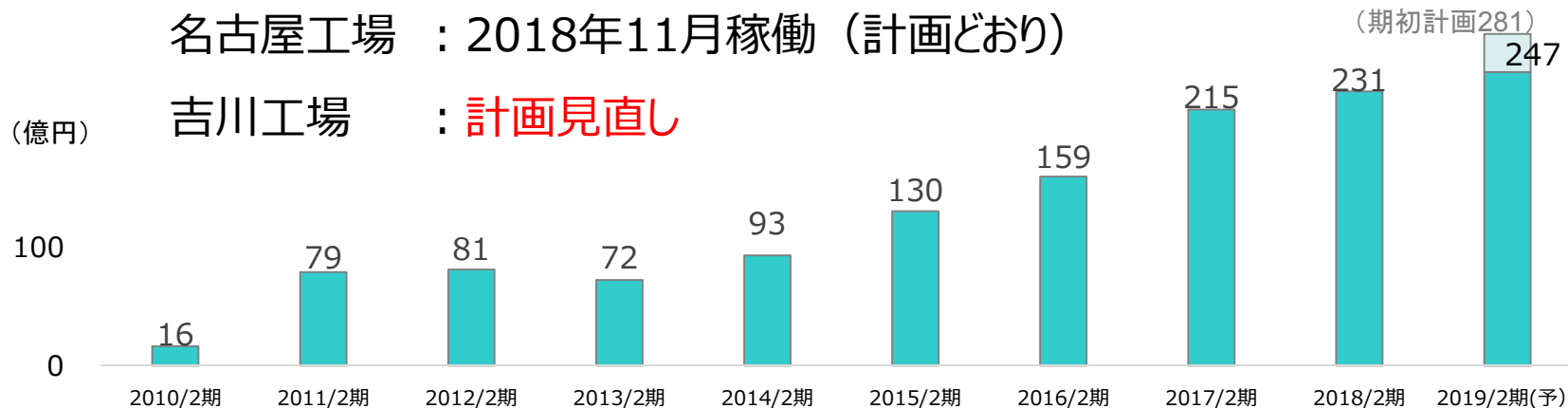
チルド弁当

チルド弁当の開発計画に遅れが生じ、下期の販売計画と設備投資計画を修正

堺工場 : 2018年 6月稼働 (計画どおり)

名古屋工場 : 2018年11月稼働 (計画どおり)

吉川工場 : **計画見直し**



白いチーズソースで食べる！キーマカレー
12月発売予定
(税込498円)

たっぷりチーズソース+スパイスの効いたキーマカレー+半熟卵

1 店舗あたり売上の拡大 – 期初計画に対する状況

おにぎり

キャンペーン減の影響、シェア低下により売上計画未達、
前年同期比売上△0.9%

▶▶▶ カラダを想う商品を引き続き投入



もち麦もっちり！舞茸おこわ
11月発売予定
(税込130円)

レタス1個分の食物繊維
だしの旨みで豊かな味わい



ツナとチーズのもち麦サラダ
(税込235円)



根菜と鶏ひじきのもち麦サラダ
(税込235円)



8種具材の野菜の煮物
(税込321円)

製造コスト上昇への対策 – 期初計画に対する状況

材料費

米価等の上昇は製品規格で吸収

人件費の上昇

おにぎりの構成比減による労務費率悪化

パート平均時給単価の上昇を製品規格で吸収しきれず

社員待遇改善、人員増加による人件費増

水道光熱費、物流コストの上昇



セブン-イレブンとの連携強化に取り組む

外国人技能実習生の受入

計画どおり進捗

省力化機械開発、導入



おにぎり番重取り装置 順次導入（10月東京、11月北陸）

チルド弁当番重取り装置の導入（11月浦和）

事業環境変化への対応

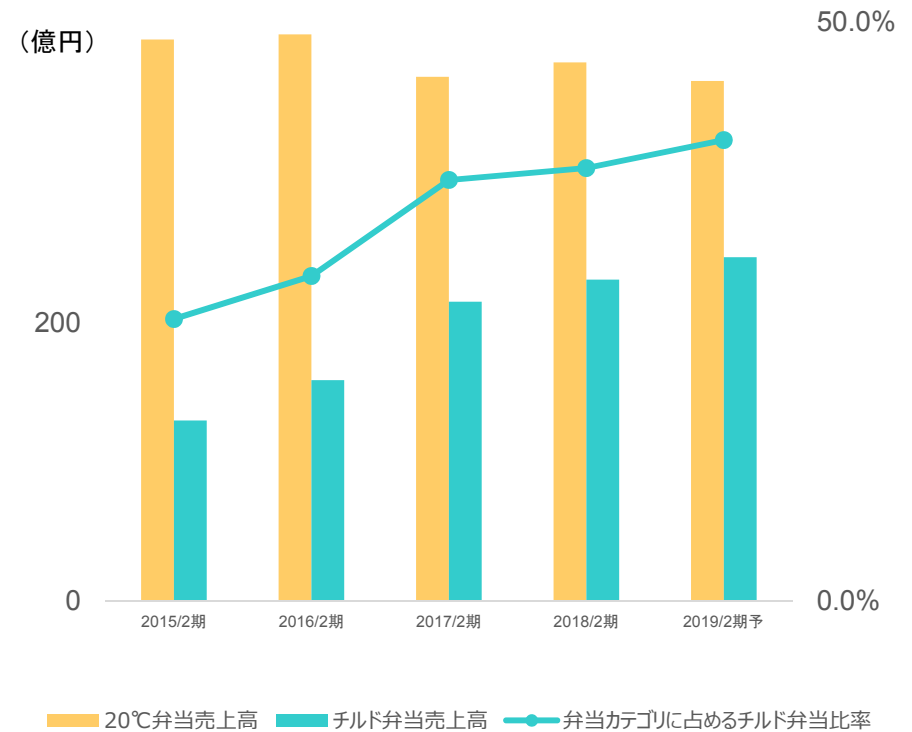
事業戦略の再構築

国内

- ・弁当カテゴリに占めるチルド弁当比率上昇
- ・持続的成長のための生産体制見直し
- ・新たな分野での業容拡大

検討項目

工場再編、組織・人員の見直し、
新規事業、等



事業環境変化への対応

事業戦略の再構築

海外

- ・当社の技術、ノウハウを活用した新たな市場での成長

現在の海外事業の状況

米国

WARABEYA U.S.A. INC.
Prime Deli Corporation

計画を上回り進捗
当期より連結子会社化、商品開発に注力

中国

北京旺洋食品有限公司

好調に推移、第二工場は今冬に稼働予定

その他

技術供与の拡大を検討



次回決算説明会において、
持続的成長戦略および中期計画を提示予定

グループ理念

私たちは「安全・安心」と「価値ある商品・サービス」の提供を通じて、

お客様の**健康で豊かな食生活**に貢献します。

経営理念

お客様のニーズを追求し、変革を推進します。

コンプライアンスを実践し、透明性の高い経営を行い、

社会から信頼される企業を目指します。

人を育て、働きがいのある、環境にやさしい企業を目指します。

